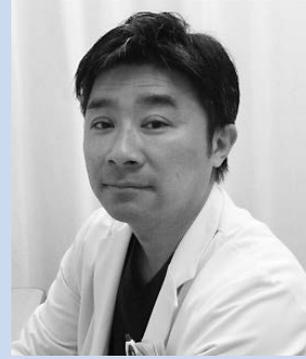


私のカルテ

No. 374

ふくくう きょうか

腹腔鏡下手術とは？

津島市民病院
消化器外科
部長
河合 清貴

芸能人が自分の病気についてソーシャルメディアを通じ、自己発信することが多くなりました。それに伴い、“腹腔鏡手術”や“内視鏡手術”という言葉を目にする機会も多くなったと思います。腹腔鏡下手術は当院でも積極的に行っていますが、よくわからず不安に思われる方も多いと思いますのでお話しします。

腹腔鏡下手術って何？

内視鏡手術ともいわれるため、胃カメラのような処置を想像される方も多いと思います。実際には全身麻酔をかけた後、おなかの中に二酸化炭素を注入して膨らませ、おなかの壁と内臓との間にスペースをつくりまします。その後、5～12mm程の穴から腹腔鏡というカメラと、手の代わりとなる鉗子^{かんし}というピンセットのような道具を使って開腹手術（従来から行われてきたおなかを大きく切る手術）と同様の操作を行います。開腹手術と異なり、腹腔鏡下手術ではテレビモニターを見ながら鉗子を使って間接的に臓器を触りながら手術を行います。

どんな病気で行うの？

当院では主に胆石症やヘルニア（脱腸）、虫垂炎（いわゆる盲腸）などの良性疾患、胃がんや大腸がんなどの悪性疾患を対象としています。

誰でも受けられるの？

過去に開腹手術を受けたことがあり、おなかの中の癒着（ひつつき）がひどい場合は腹腔鏡下手術が困難と術中に判断し、開腹手術に変更することがあります。進行したがんではその程度により腹腔鏡下手術が行えないことがあります。

利点は？

傷が小さいので痛みが軽く、回復が早いといわれています。カメラの拡大視効果により出血が少ないことや術後の癒着が起りにくいこと、開腹手術では見にくい場所にも目が届くことなどの利点もあります。

欠点は？

間接的に臓器を触る手術なので、手術操作に限界があることや手術時間が長くなる傾向があることなどが挙げられます。術中のテレビ画面は平面（2D）となるため前後の位置関係がわかりにくくなるという欠点がありますが、最近では3D画像の腹腔鏡（当院にもあります）も普及してきており、その弱点を補っています。がん治療としての長期成績については開腹手術と同等との報告が増えてきていますが、まだわかっていない部分もあります。

医師は治療を行う際、患者さんやその家族に十分説明し同意を得る必要があります。私たちは手術に関して患者さんの安全を第一に考えた上で、患者さんの立場に立った説明を心掛けています。わからないことや不安なことがあれば何でも気軽に相談してください。

